艦上戰鬪機「日本幼兒號」獻納

倉橋惣三

皆さまに御報告申上げてお喜び願ひます。

一　金九萬八千圓也　「日本幼兒號」獻金

七月三十一日午後二時海軍省に出頭海軍次官岡海軍中將閣下に面會、右の獻納手續をいたしました。そして此の獻金の發意、主旨、殊に全國幼稚園及び保育所の熱心な御協賛と努力、わけても幼兒の可愛らしい純眞の愛國感情を委細申上げたのに對し、次官は大層よろこばれ、醵金に與つた多數の幼兒の純情を嘉納して、立派な戰鬪機を造り前線に送るべきこと、どうぞ皆さんに宜敷くとのことでありました。それから別室で栗原海軍大佐に是非「日本幼兒號」と命名せられたいことをお願ひしたに對しては、まことにいい名です。一番勇しい艦上戰鬪機にしませう。海軍大臣から感謝狀を差上げる筈ですが、いづれ出來上りの上獻納式の日に差上げます。その日は更めて御案内申上げますと申され、左の受領書を下さいました。

第7514號

日本幼稚園協會
代表　倉橋惣三殿

金九萬八千圓也

艦上戰鬪機（日本幼兒號）

右國防充實ノ主旨ヲ以テ寄附相成受領候也

昭和十九年七月三十一日

海軍省經理局國防獻金出納官吏

海軍主計少佐　山内伸穂

當日は幼兒を同道の考へもありましたが、時節柄控へまして、此の擧の一番初めの提議者佐賀縣の一人唐津幼稚園の吉富園長、最も多額の醵金に御盡力下さつた栃木縣幼稚園聯合會の伴副會長佐藤幹事及び本協會の及川幹事と倉橋

と五人で參りました。尙受領書宛名の代表が便宜上倉橋になつてゐますことは御諒承願つて置きます。

昨年の夏の保育講習の時、閉會式の席上會員皆さまに此の事をお謀りし滿場の拍手を以て贊同を得、その十一月の幼兒の教育誌上に計畫提唱、第一回の總收金四萬八千九百四拾四圓七拾六錢を同誌四月號に報告、飛行機一機は金八萬圓以上を要する旨を以て更に第二回の提唱をいたし、本年六月末日〆切を以て此の金額に達したのであります。第二回御寄托者及び第一回との總合計寄托者の報告は別欄の通りでありますが、如何に遠隔の地からわれらの提唱に共鳴協贊して下さつたことでせうか。感銘にたへないのであります。

さて、此の醵出幼兒は第一、二回を通じて日本幼兒全部ではありませんが、「日本幼兒號」の名には、日本の幼兒全部の愛國の純情を籠めたいと思ひます。醵出して下さらなかつた方は通知の至らなかつた爲で、提唱者の手配の不備をおわび致します。しかも、醵出の有無に拘はらず、「日本幼兒號」は全國幼兒の心の獻納であります。空を仰いでボクラの飛行機、ワタクシタチの飛行機と喜んでいたゞきたいと思ひます。

日本幼兒號

朝日新聞（八月一日）

昨年十月、日本幼稚園協會（東京女師高内）が『日本の幼兒のまごころで飛行機を一臺お國にさゝげようではありませんか』との運動を起した、童心のもえたつところ、たちまちに内地、臺灣、朝鮮はいふに及ばず、滿洲、北京、青島などの邦人幼稚園までも力をあはせ、千餘の保育機關から九萬八千圓があつまつたので三十一日協會の倉橋主幹らが海軍省をたづねて獻金した、名前は「日本幼兒號」にしてほしいと同協會から申出た。

艦上戰鬪機「日本幼兒號」成るの日、いづこの洋上にその勇姿をあらはし、その勇鬪をすることでせう。日本海軍の一機は敵海軍の十機百機に當り、この一機よく、敵の戰鬪艦を轟沈せしめ、大航空母艦を擊沈せしめることが出來るでせう。これから戰鬪機が大戰果を擧げたと聽く毎に、この日本幼兒號が立てた戰功と思ふことでせう。斯くて、今まで直接には戰爭に參加することのなかつた幼兒が、この機を通して堂々と參加するのです。日本幼兒の魂の籠る此の戰鬪機、征け征け、うんと戰つて下さい。

それにしても、此の九萬八千圓が成るまで、各地保姆諸君と幼兒達と、どんなに强い熱意のことであつたでせう。

その並々ならぬ、そしていろ〳〵さま〴〵の御苦心の程は軍海次官にもお話しておきました。殊に保護者、一般の人人の熱心も感謝すべきで、日光製銅所幼稚園で、工務員諸君の退出の時間街上に幼兒が立つて募金した時、二日間で二千圓餘に達し、醵金の人々が一々帽をとつて、有り難う結構のことですと幼兒達に挨拶してゆかれた光景などは、

毎日新聞（八月一日）

「日本幼兒號」獻納

東京女高師内日本幼稚園協會主幹倉橋惣三氏等は三十一日午後二時海軍省を訪れ岡次官に面會、全國幼稚園の子供さんたちがかはいゝ赤誠をこめた「日本幼兒號」獻納（九萬八千圓）の手續を執つた

この九萬八千圓は全國の園兒が昨年秋から同協會の肝煎りで家庭に「飛行機獻納貯金箱」をこしらへたり、ご褒美などを貯めたりしたものである。

その一例として目にしみるものがあります。その他一々例を擧げたらきりがないでせう。そして私達は此の一機獻納の額に達したことを喜ぶと共に、一番大切なことは醵金額の多少ではなくて、此の擧によつて幼兒の愛國感謝を——戰下保育を實踐的に行ひ得たことであります。この擧のために、幼兒は如何に戰鬪への關心を加へたことでせう。如何に勝つために祈る心を深めたことでせう。

空の父空の兄らを仰ぎつゝ
日本の幼兒　飛行機を獻ず
私の感激であります。（昭和十九年七月三十一日）

左の記事は八月一日朝日新聞仙臺版に掲載せられたものを仙臺市ホサナ幼稚園の先生が「日本幼兒號」成るの悅びを寄せられると同時に送つて下さつたものです。（編輯部）

日本幼兒號

空の戰ひに幼兒までも、こんなに一生懸命になつてゐる——昨年十月、日本幼稚園協會（東京女高師内）が『さあ、日本の幼兒のまごころで飛行機を一臺お國にさゝげようではありませんか』との運動を起した、童心のもえたつところ、たちまちに内地、臺灣、朝鮮はいふに及ばず、滿洲、北京、青島などの邦人幼稚園までも力をあはせ、千餘の保育機關から九萬八千圓があつまつたので三十一日協會の倉橋主幹らが海軍省をたづねて獻金した。

この金は、幼兒がたとへばお母さんのアンマをして頂いた三錢とか、病院へ藥をとりにゆくお使をしてもらつた二錢とかをためたり、海岸地方では松葉をあつめて『飛行機をつくるんですから』とお母さんに買つて頂いたりして貯へたもの、父兄や幼稚園の先生の協力もあるが、大半は幼い子供たちの純一なこころを愛くるしい手で築きあげた九萬八千圓である。

海軍省の係官はこの話をきいて深く感動し『りつぱに艦上戰鬪機が一機できますよ、全國の幼兒諸君、ありがたう』と心からお禮をのべられたが、飛行機の名前は『日本幼兒號』にしてほしいと同協會から申出た。